

令和7年度

取扱注意

授業改善推進プラン【中学校】

- ①令和7年度北区立中学校学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②令和7年度第1～3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 5教科(様式3)

東京都北区立飛鳥中学校

令和7年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	漢字・語句、文法事項等の基礎知識は継続して定着を図る。書くこと、話すことの技能を高めると同時に、文章やスピーチ等における図表の効果を考えたり、図表のデータと意見を関連付けたりするなど、情報活用能力も身につけさせる。
社会	資料の読み取りなど、基礎知識を活用した問題に課題が見られる。 反復学習による基礎知識の定着を図るとともに、身につけた知識を活用して考えを深め、説明する機会を増やす。
数学	物事を論理立てて説明していく力に課題がある。問題を解いた後に、周りの人に自分の考えが分かるように伝える機会を多くとり入れていく。
理科	知識・技能の習得に課題がある。 実験・観察の結果を分析したり考察したりすることを通して、興味・関心を高め、基礎的な知識を身につけさせる。
英語	文脈や対話の流れに応じた英文を書くこと、概要を理解できるように読むことに課題がある。 教科書を使用する際に、理解と暗記で終わらずに、発展的な学習にまで取り組ませていく。

本校が生徒に育成したい力
・自ら考え、人を思いやり、実行する力。 ・学ぶ喜びと意欲を大切に、学習習慣を確立し、主体的に考え、判断し、表現しながら学ぶ力。 ・心を込めた挨拶ができ、高い志を抱いて自立した生活習慣や生き方を実行する力。

校内における学力向上推進体制
・学力向上PT ・校内研修委員会 ・TT少人数委員会 ・教科部会

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法 の工夫	教育課程編成上 の工夫	校内における研究 や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との 連携の工夫
・主体的・対話的で深い学びの実現 ・「わかる・できる」授業 ・「考えさせる」授業の充実 ・言語活動の充実 ・ICTの活用	・TTによる授業の実施 ・習熟度に応じた少人数制授業の実施	・定期的な研修会の実施 ・各自の課題に応じた実践的な研究 ・外部研修会への積極的な参加	・適切な指導と評価の一体化 (学習計画書「飛鳥中学校の学習」の発行) ・成績結果の掲示と振り返り (考査記録「鳳雛」の配布) ・生徒、保護者による授業評価を取り入れた授業改善	・北区学校ファミリー構想の具現化 ・外部評価の公開 (地域社会・学校評議員等) ・定期考査前の家庭学習の指導 ・保護者への協力依頼 ・各種検定の積極的な受検

本校の教育目標
誇り高く 志をもち 自他を大切に生きる生徒 自ら考え 心豊かに たくましく

学力向上にかかわる経営方針
確かな学力を主体的・対話的で深い学びの中で身につけさせる。

〔様式2〕

令和7年度 第1学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

東京都北区立飛鳥中学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに目標値、区平均正答率および全国の平均正答率を大きく上回っている。	目標値、区平均正答率、全国平均正答率をいずれも、大きく上回っている。「知識・技能」は6.7ポイント、「思考・判断・表現」は12.8ポイント、目標値を上回っている。	おおむね正答率は区・全国を上回っているものの、「文法・語句に関する事項」については課題はある。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに目標値、区平均正答率および全国の平均正答率を上回っている。	目標値、区平均正答率、全国平均正答率をいずれも上回っている。「知識・技能」は1.2ポイント、「思考・判断・表現」は7.6ポイント、目標値を上回っている。	おおむね正答率は区・全国を上回っているものの、「歴史的分野」については課題はある。
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎は目標値を9.6%上回っており、全国平均を9.3%上回っている。活用は目標値を6.9%上回っており、全国平均を6.9%上回っている。	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点すべてにおいて区・全国の正答率と目標値を大幅に上回っている。	すべてのカテゴリーで全国の正答率を上回っているものの、「平面図形」と「データの分析」に課題がある。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎は目標値より0.5%低く、全国平均より2.7%高い。活用は目標値より3.1%高く、全国平均より7.5%高い。	「思考・判断・表現」の観点は、目標値、区平均正答率および全国平均正答率を上回っている。「知識・技能」は目標値より下回っており、課題である。	「物の燃え方」、「大地のつくりと変化」、「水溶液の性質」について課題がある。
英 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに目標値、区平均正答率および全国の平均正答率を上回っている。	目標値、区平均正答率、全国平均正答率をいずれも上回っている。「知識・技能」は8.7ポイント、「思考・判断・表現」は6.5ポイント、目標値を上回っている。	おおむね正答率は区・全国を上回っているものの、「英文の完成」については課題はある。

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに目標値、区平均正答率および全国の平均正答率を上回っている。説明的文章や文学的文章の読み取りにおいては、区平均・全国平均を大きく上回っているが、漢字の書き、文法・語句に関する事項については区平均・全国平均とともに下回っている。	すべての観点で、区平均正答率、全国平均正答率を上回っている。「思考・判断・表現」において、目標値を9.6ポイント上回っている。「知識・技能」においては、目標値を2.0ポイント上回っている。	「情報の扱い方」が区平均・全国平均を大きく上回っているのに対し、「言葉」は区平均・全国平均を下回っており、領域によりはつきりと差が出ている。また「記述」問題での、無回答率が19%という点が課題である。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
問題形式の正答率では、「基礎」「活用」とともに区平均・全国平均を上回っている。	観点別の正答率では「思考・判断・表現」の問題が区平均・全国平均をやや下回っており、課題が見られる。	問題の内容別では、地理的分野の「世界の姿」「世界各地の人々の生活と環境」、歴史的分野の「縄文時代～古墳時代」、「飛鳥時代～平安時代」がそれぞれ全国平均を下回っており、課題がある。
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎は目標値を6.4%上回っており、全国平均を8.8%上回っている。活用は目標値を3.8%上回っており、全国平均を9.1%上回っている。	「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点すべてにおいて区・全国の正答率と目標値を上回っている。「知識・技能」においては、全国の正答率より9.0%と大幅に上回っている。	すべてのカテゴリーで全国の正答率を上回っているものの、「空間図形」と「比例・反比例」に課題がある。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全体的には4.3ポイント目標値を下回っている。「活用」は4.2ポイント、「基礎」に関しては4.4ポイント下回っている。領域別では「生命」では13.4ポイント、「地球」では7.6ポイント目標値より下回っている。	「知識・理解」では4.5ポイント、「思考・判断・表現」では4.2ポイントとどちらも目標値よりも下回っている。	領域別では「生命」では3.4ポイント、「地球」では7.6ポイント目標値より下回っており、「植物の分類」、「火山」、「地層」、「地震」、の分野において課題が多い。「エネルギー」、「粒子」分野では目標値を上回っている。
英 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに目標値、区平均正答率および全国の平均正答率を上回っている。	目標値、区平均正答率、全国平均正答率をいずれも上回っている。「知識・技能」は4.9ポイント、「思考・判断・表現」は15.5ポイント、目標値を上回っている。	「場面に応じて書く問題」や「3文以上の英作文」などまとまりのある文章を書くことでは大きく上回っているが、「語形・語法の問題」は区平均を下回っているため、パターンプラクティスを充実させ、定着させていく。

〔様式2〕

令和7年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに目標値、区平均正答率および全国の平均正答率を上回っている。「発表の内容を聞き取る」「漢字を読む」「紹介する文章を書く」は目標値を大幅に上回ったが、「漢字を書く」「文章を書く」は目標値をやや下回った。	「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点すべてにおいて目標値、区平均正答率、全国平均正答率を上回っている。「知識・技能」は5.1ポイント、「思考・判断・表現」は4.9ポイント、目標値を上回っている。	「話すこと・聞くこと」の領域では目標値を10.6ポイント上回り、話の構成についての正答率は特に高かった。一方、「言葉」や「書くこと」の領域では、目標値を上回ったものの、漢字の書き、情報を読み取って書く力、問いに正対した答え方に課題が見られた。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用とも全国の平均正答率を上回った。活用は、区の平均正答率を1%下回った。	「知識・技能」に関しては、全国および区の正答率を上回った。「思考・判断・表現」の正答率については、全国、区ともに正答率を下回った。	地理的分野はおおむね区と全国の正答率を上回っている。歴史的分野に関しては、江戸時代・明治時代の内容で課題が見られた。
数 学		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎は目標値を9.6%、全国平均を11.7%上回っている。活用は目標値を11.2%、全国平均を12.2%上回っている。	「知識・技能」は目標値を11.0%、全国平均を12.0%上回っている。「思考・判断・表現」は目標値を8.2%、全国平均を11.6%上回っている。	「図形」の領域では全国平均を8.3%上回っていて、他の領域では全国平均を10%以上上回っている。問題の内容でもすべての分野で目標値・全国平均を上回っているが、「図形の性質」と「証明」の分野で課題が見られる。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全体的には目標値よりも1.2ポイント下回っている。「基礎」に関しては4.5ポイント下回っていたが、「活用」に関しては7.4ポイント上回っていた。	「知識・理解」では3.5ポイント下回っているが、「思考・判断・表現」においては、目標値を2.3ポイント上回っている。	領域別には「エネルギー」、「粒子」分野では目標値を上回っていたものの、「生命」、「地球」分野では目標値を下回っている。具体的には、「生物と細胞」、「気象の観測」、「前線の通過と天気の変化」について目標値を下回る傾向が高い。
英 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに目標値、区平均正答率および全国の平均正答率を上回っている。	目標値、全国平均正答率をいずれも上回っている。「知識・技能」は8.5ポイント、「思考・判断・表現」8.7ポイント、目標値を上回っている。	おおむね正答率は区・全国を上回っているものの、目的・場面・状況を理解した上で書く「まとまった量の英作文」については日常的に訓練させていかなければならない。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国 語）

東京都北区立飛鳥中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	国語への関心は高く、学力調査の結果もおおむね良好である。基礎基本の力は身につけている部分が多いものの、以下の点に課題がある。 ・漢字の書き取り(および書字技術) ・資料の読み取り ・指定された分量、条件(目的や意図)で文章を書く力 ・自分の考えや立場を明確にして書く力	・漢字テストや練習を通して、書き取り指導を徹底する。字義と語句の意味をよく調べ、記録するように助言し、漢字学習の工夫をさせる。身近な題材で例文を作り、理解して使うようにさせる。 ・条件に注目させ、それを踏まえた文章構成を徹底反復する。自分の立場を決め、意見を根拠や理由などを交えて明確に述べる取り組みを行う。	・漢字検定の推進。 ・自分の書いた文章を、積極的に他者と交流させる活動。 ・ブックトークやビブリオバトル等をとおして、スピーチを聞き、話の構成や順序について考えさせる。 ・スピーチやレポート等においても図表やビジュアル資料を使った効果についても実感させる授業を展開する。
2年	国語への関心は高く、学力調査の結果もおおむね良好である。基礎基本の力は身につけている部分が多いものの、以下の点に課題がある。 ・考えや根拠を明確にして、条件に応じて文章を書く力 ・漢字の書き取り(および書字技術) ・基本的な文法・語句の知識の定着	・読み取りや聞き取りなど、日常の授業において、文章の構成を意識させ、筆者や話者の意図をつかむ練習をする。 ・条件に注目させ、それを踏まえた文章構成を徹底反復する。 ・定期的な漢字テストの実施と漢字学習の習慣化を目指す。また、扱う語彙を意図的に増やし、字義と語句の意味をよく調べて記録するように助言し、漢字学習の工夫をさせる。例文を作り、理解して使うようにさせる。	・漢字検定の推進。 ・ブックトークやビブリオバトル等をとおして、スピーチを聞き、話の構成や順序について考えさせる。 ・スピーチやレポート等においても図表やビジュアル資料を使った効果についても実感させる授業を展開する。 ・漢字学習の時間を定期的に作り、個人の目標に沿って主体的に学習させる。その際は、辞書も活用させる。
3年	国語への関心は高く、学力調査の結果もおおむね良好である。基礎基本の力は身につけている部分が多いものの、以下の点に課題がある。 ・漢字の書き取り(および書字技術) ・資料の読み取り(分析する力) ・問いと正対して書く力	・図表から読み取った情報を書き出し、問題点や解決策などを考えて、文章にまとめる取り組みを行う。その際、自分と他人の意見の相違点にも着目させ、根拠を吟味し、自分の考えを再構築する時間も確保する。 ・定期的な漢字テストの実施を継続する。また、ICTを活用すべき場면을吟味し、紙に文章を書く時間を意図的・計画的に配置する。その際、習った漢字は用いるようにし、日常的に漢字を使う場面を作る。 ・条件に注目させ、それを踏まえた文章構成を徹底反復する。	・漢字検定の推進。 ・資料を基にした説明文や論説文に多く触れさせ、図表・資料の効果を的確につかめるようにさせる授業を展開する。 ・ブックトークやビブリオバトル等をとおして、スピーチを聞き、相手の意図をつかむ練習や自分の意見と比較する経験を積ませる。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立飛鳥中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	問題形式の正答率では、「基礎」「活用」とともに区平均・全国平均を上回っており、観点別の正答率でも「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに区平均・全国平均を上回っている。 問題の内容別では、全ての項目で区平均・全国平均を上回っているが、近現代の歴史や政治的分野にやや課題が見られる。	・授業の中で、用語をきちんと記述するよう、ノートやワークシートの記入の際に指導し、ノートチェックをすることで、正しく書く習慣と正確な知識の定着をはかる。また、既習事項の確認を授業の導入に取り入れ、基礎知識の定着を図る。 ・教科書・資料集や、GIGAスクール端末を活用し、授業の学習内容に関係する多様な資料に触れる機会を増やし、資料をもとに、既習内容を活用して自分の考えをまとめる機会を設ける。	・地域資料を活用し、学習内容を生徒が身近に感じられるように工夫するとともに、社会科的な見方、考え方の育成に努める。 ・知識定着のために、ワークと復習プリントを活用して反復学習を取り入れ、自主学習を促す。また、長期休暇中に調べ学習に取り組ませ、社会科に関心をもたせ、今後の学習内容への準備をさせるとともに、主体的に学習に取り組む態度の伸長を図る。
2年	問題形式の正答率では、「基礎」「活用」とともに区平均・全国平均を上回っているが、観点別の正答率では「思考・判断・表現」の問題が区平均・全国平均をやや下回っており、課題が見られる。 問題の内容別では、「世界の姿」「世界各地の人々の生活と環境」「縄文時代～古墳時代」の項目に課題が見られ、以前に学習した内容の定着に課題がある。	・授業の中で、用語をきちんと記述するよう、ノートやワークシートの記入の際に指導し、ノートチェックをすることで、正しく書く習慣と正確な知識の定着をはかる。また、既習事項の確認を授業の導入に取り入れ、基礎知識の定着を図る。 ・单元ごとにまとめの時間を確保し、できないところを放置せず、知識が定着するまで学習する習慣を身につけさせる。 ・教科書・資料集や、GIGAスクール端末を活用し、授業の学習内容に関係する多様な資料に触れる機会を増やし、資料をもとに、既習内容を活用して自分の考えをまとめる機会を設ける。	・知識定着のために、ワークと復習プリントを活用して反復学習を取り入れ、自主学習を促す。また、長期休暇中に調べ学習に取り組ませ、社会科に関心をもたせ、主体的に学習に取り組む態度の伸長を図る。 ・身につけた知識を用いて、生徒が主体的に探求を進められるように、調べ学習などの課題を設定する。
3年	「主体的に取り組む態度」の観点では区平均・全国平均正答率を上回っており、全体的に社会への関心は高いが、教科の正答率は全国平均をわずかに下回っている。歴史的分野の中世～近世の範囲の知識や資料をもとに判断する問題に課題が見られる。	・授業の中で、用語をきちんと記述するよう、ノートやワークシートの記入の際に指導し、ノートチェックをすることで、正しく書く習慣と正確な知識の定着をはかる。また、既習事項の確認を授業の導入に取り入れる。 ・教科書・資料集や、GIGAスクール端末を活用し、授業の学習内容に関係する多様な資料に触れる機会を増やし、資料をもとに自分の考えをまとめる機会を設ける。	・知識定着のために、ワークと復習プリントを活用して、反復学習を行う。特に歴史的分野においては、1・2年次の振り返り学習を実施する。 ・資料を読み取り考察する力を身につけるために、さまざまな資料を活用し、注目するポイントを示して自分の意見をまとめる機会を設定する。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（数 学）

東京都北区立飛鳥中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	北区基礎基本調査によれば、ほとんどの領域・分野も正答率は高く、全国の平均点を上回っている。 しかし、合同な図形と最頻値・中央値についての問題は、全国平均を下回っている。 これから学ぶ、「5章平面図形」と「7章データの活用」を丁寧に授業を行っていく。	①「自力解決」→「学び合い」→「全体共有」→「振り返り」のサイクルを授業内で身に付けさせる。 ②多様な考え方ができる問題演習では、自分の考えを相手に分かりやすく説明するという言語活動を取り入れる。 ③定期考査や章の確認テストの分析を行い、正答率の低かった問題を繰り返し出題し、身に付くまでの反復学習を行う。	分からない問題を友達同士で教え合うことは少しずつできるようになってきたので、次は粘り強く自力で考える力を付けさせたい。そのために、「自力解決→教え合い→考え発表→集団検討→振り返り」という授業展開を入れられるだけ入れていく。 11月に計算コンクールを実施し、1年生で身に付けなければいけない計算問題を確実に解ける力を身に付けさせる。
2年	北区基礎基本調査によれば、どの領域・分野も正答率は高く、全国の平均点を上回っている。 その中でも、理由の説明や関数分野における正答率が低いので、3章「1次関数」の分野でつながりを意識して授業を行うようにしていく。	3章「1次関数」の導入時には、1年生の既習事項である「比例・反比例」の復習を行った。また、1次関数のグラフは直線になることから、比例の直線との共通点などにも気付かせていく。	分からない問題を友達同士で教え合うことはよくできているので、それを友達に説明する力を身に付けさせたい。そのために、「自力解決→教え合い→考え発表→集団検討→振り返り」という授業展開を入れられるだけ入れていく。
3年	北区基礎基本定着度調査の結果によると、教科の正答率の平均は全国・区の数値を上回っており、どの領域においても高得点である。 しかし問題の仮定や、すでに証明された事柄から、新たにわかることを証明する問題に課題が見られる。	①十分な問題演習の時間をとり、基礎を定着させる。 ②教え合いやグループ発表、全体発表などの時間を増やし、説明する力を身につけさせる。 ③振り返りの習慣をつけさせ、できないところは身につくまで反復練習させる。	①自主的に学習を進められるように補充教材の充実を図る。 ②単元テストや計算コンテストを行う。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立飛鳥中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	北区基礎・基本の定着度調査では、「活用」が区平均・全国平均・目標値を上回っているが、「基礎」が下回っている。観点別正答率では「思考・判断・表現」の問題が区平均・全国平均・目標値を上回っているが、「知識・技能」は下回っており、課題が見られる。また、問題の内容別では、「物の燃え方」、「水溶液の性質」に課題がみられる。	授業で学んだことや実験から考えられることを、自分の考えとして、わかりやすく説明できるようにする。実験の考察を書かせたり、学んだ授業内容を自分の言葉でまとめさせる。 授業内で、既習事項を振り返る場面を設け、基礎の定着をはかる。 なるべく映像資料を活用したり、できるだけ多くの実験を行うなどして、座学だけでなく生徒が能動的に動きながら学べるようにする。	自分の考えをかけるように、考察やまとめなどには考えられた理由を明記するよう指導する。また、ペアワークなどを行い、他者との考えを共有し比較させて、自分の考えを自己調整できるようにする。 学んだことを活かしつつ、生徒が興味・関心を持てるような課題設定を行い、調べ学習を行う。
2年	全体的には4.3ポイント目標値を下回っている。「活用」は4.2ポイント、「基礎」に関しては4.4ポイント下回っている。領域別では「生命」では13.4ポイント、「地球」では7.6ポイント目標値より下回っており、具体的には「植物の分類」、「火山」、「地層」、「地震」、の分野において課題が多い。基本的な知識の定着ができていないことが考えられる。「エネルギー」、「粒子」分野では目標値を上回っている。	基本的な知識をしっかりと定着させるためにも、定期的な単元テスト等実施していく。また、考える力を定着させるために、調べ学習や発表する活動を通して、学習した内容を定着させていきたい。	他者の意見を取り入れ、自分自身の思考を高めさせる活動を通して、学びあえる学習環境づくりをつくっていききたい。また、活用問題等を取り入れ、一人ひとりが自分の能力を高めあえるようにさせていく。
3年	全体的には目標値よりも1.2ポイント下回っている。「基礎」に関しては4.5ポイント下回っていたが、「活用」に関しては7.4ポイント上回っていた。領域別には「エネルギー」、「粒子」分野では目標値を上回っていたものの、「生命」、「地球」分野では目標値を下回っている。具体的には、「生物と細胞」、「気象の観測」、「前線の通過と天気の変化」について目標値を下回る傾向が高い。思考力の向上が見受けられる。	活用力を高めるためにも、既習事項を確認し基礎基本をしっかりと定着させることを意識させていきたい。実験をおこない、結果をどのように分析していくのかという過程を大切に、考える力を高めていきたいと考える。	調べ学習を通して、いろいろな文献や情報を整理する力を身につけさせていきたい。また、他者の発表を聞くことで、プレゼンテーションの効果的な発表の仕方を学び、自分自身の知識をより一層高める学習をさせていく。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（英 語）

東京都北区立飛鳥中学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	北区基礎基本定着度調査の結果によると、教科の正答率の平均は全国・区の数値を上回っており、どの領域においても高得点である。 しかし、「概要を聞き取る」「条件に合わせて書く英作文」に課題が見られる。	①「英文の概要を聞き取る」ために、教科書本文を読む前に、内容を口頭で導入し、場面や状況を聞き取れるようにする。英文を聞いて、ストーリーの順番に絵を並び替えたり、5W1Hの情報を聞き取れるようにする。 ②「条件に合わせて書く英作文」については、3つの視点から改善が必要である。1つ目は、「書く」前に「話す」指導を行うこと。2つ目は、「目的・場面・状況」を設定した課題に取り組ませること。3つ目は、新出言語材料から発展させ、文脈のある英文を書かせることである。	① 家庭学習を、指定されたメニューをこなすことから始め、徐々に選択の幅を増やして、自己選択できるようにする。 ② オンライン交流授業など、実際の場面で英語を使う場面を設定する。
2年	基礎・活用ともに区平均を上回っている。とくに、3文以上の英作文を書く問題では、区平均を13.7ポイント上回っているため、1年次から目的・場面・状況を設定して書いたり話したりさせてきた結果が出ている。しかし、語形・語法の知識・理解は少し下回っているため、基礎的な部分に課題がある。	・新出文法の導入時に、やりとりしながら口頭で一人一回以上言わせるのを継続しながら、口頭練習が不十分なところを確認するために、ディクテーションなどで、文法構造の確認をする。 ・土台をしっかりと構築させるために、話す活動のあとには、アウトプットとして書かせる活動を意識的に入れる。	・帯活動でパターンプラクティスを定期的に行い、確実に基礎的な知識・技能の定着を行う。 ・ディスカッションで、自分の立場を明確にし、相手の意見を尊重しながら、自分の意見を客観的に英語で述べられるように、単元を作っていく。
3年	【成果】 「語彙の知識・理解」「リスニング全般」「英文の読み取り」において全国・区の目標値を上回っている。 【課題】 「場面に応じた英作文」では、全国平均を上回っているものの、目標値が5%程度下回っている。 「思考・判断・表現」が目標値は上回っているものの、「知識・技能」に対しての差が大きい。 「場面に応じた英作文」においては、「並び替え」「3文」英作文の積み上げはなされているものの、「状況適応文」が書けていない。	本調査結果から、語彙やリスニング力は高いが、場面に応じた英作文や思考・判断・表現の観点に課題が見られた。そこで、日常的に話す・書く活動を関連づけた言語活動を強化する。また、場面や相手、目的に応じた発信力を養うために、ロールプレイや実用的な英作文練習（Eメールやポスター）を導入する。読解においては、問いに応じた読解技法や要約活動を通じて思考の深まりを図り、「伝えるために読む」「考えて書く」授業へ転換を図る。	補充指導では、文構造の視覚化や並び替え作文など、基礎の定着を重視した教材を活用する。リスニングはゆっくり→自然速度への段階的聞き取りで慣れを促す。一方、発展指導では、エッセイやディベート等の思考表現活動や、多読・多聴による実素材への接触を増やす。また、場面に応じた文体の使い分け（SNS投稿・意見文など）を通じて、より洗練された表現力の育成を図る。生徒の実態に応じた層別の支援を丁寧に行う。